

令和5年度 ICTを活用した授業改善研究報告書 楠那中学校

1 学校の課題

※データ等を基にした学校の課題

ミライシードの活用が進み、教科のねらいにつながる実践が行われるようになってきたものの、学習に困り感をもつ生徒は一定数存在しており、それぞれの実態に応じた指導が必要である。また、そうした個別最適な学びを実現するために ICT をどのように活用していくのか、具体的なイメージを教員が十分にもてていない。

また、学習ログを残す取組(学びの足跡・振り返りシート等)は行っているものの、生徒が学習ログを活用して課題を見出したり、次の学習につなげたりする活用は十分ではなかった。

2 研究主題

小中9年間を見通した「個別最適な学び」の実現のための ICT 機器の効果的な活用

3 取組内容

※1の課題解決に向けて、重点的に取り組む項目とその具体

(1) タブレット端末を活用した、授業モデルについての実践研究

○公開授業研究会

- ・10月27日 国語公開研究会

題材：「ブックレビューを書こう（「盆土産）」

ねらい：登場人物の言動を根拠にその表情を説明することができる。

登場人物の表情を自分の選んだ方法で表現し、オクリンクで共有。仲間のカードを見て、話を聞きたい相手を選んで交流。【個別最適な学び】

交流の最後に再度登場人物の表情、心情をオクリンクのカードにまとめるとともに、考えが変わった（変わらなかった）理由を記述し、自分の変容を振り返る。【学習ログの活用】



- ・1月26日 保健体育科公開研究会

題材：「Gダンス」

ねらい：自分で選択したステップを組み合わせて踊ることができる。

13種類のステップの中から自分が習得したいステップ、スピードを選び、動画を参照したり、仲間と動きを撮影し合ったりしながらそれぞれのペースで練習【個別最適な学び】

授業の導入において、前時終末に記述した振り返りシートから本時の課題や練習方法を各自計画する【学習ログの活用】



○校内研修会

- ・ 5月24日 校内研究授業（国語） 題材：魅力的な提案をしよう
ねらい：相手に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
- ・ 7月31日 比治山大学 鹿江宏明先生による講義
研修内容：「個別最適な学び」を目指す授業をデザインするには
- ・ 8月 小中合同研修
研修内容：小中それぞれの ICT の活用方法の共有
ドリルパークの使い方
- ・ 12月26日 比治山大学 鹿江宏明先生による講義
研修内容：今後のさらなる ICT 機器の活用について



(2) タブレット端末を日常的に活用する機会の創出（昨年度からの継続）

○タイピング練習日の設定

- ・ 毎週木曜日に、終学活の3分間を利用してタイピング練習に取り組む。
（全学年「プレイグラム タイピング」を使用。）
- ・ タイピングの目標指数を各学年で設定。
*別紙「タイピング 小学生～中学生 目標指数と達成率」



○情報モラルに関する取組表を作成

- ・ 各学年、各授業で取り組んでいるものを集約して取組表を作成。情報共有を行う。
*別紙「情報モラルの指導記録」

○総合的な学習の時間などで情報の検索・資料のまとめの作成

- ・ ミライシードのオクリンクを使用して作成。インターネットも活用して調べ学習を行い、調べた情報を整理し、まとめを行った。



(3) スタディ・ログの活用（昨年度からの継続）

○ドリルパーク学習日の設定。

- ・ 毎週水曜日の朝学活前の10分間 ミライシードのドリルパークを生徒に取り組みせる。
- ・ 教科は生徒が選び、担任から指定された場合は指定された教科に取り組む。

○全教科で学びの足跡（学習の振り返り、記録）を作成。

- ・ 全教科で振り返りシートを作成し、学習ログを蓄積する。
- ・ 紙媒体または、タブレット端末を使用して生徒に記録させる。

4 検証結果

※成果指標の検証方法および結果

成果指標のデータ等

【公開研究会、校内研修会での意見】

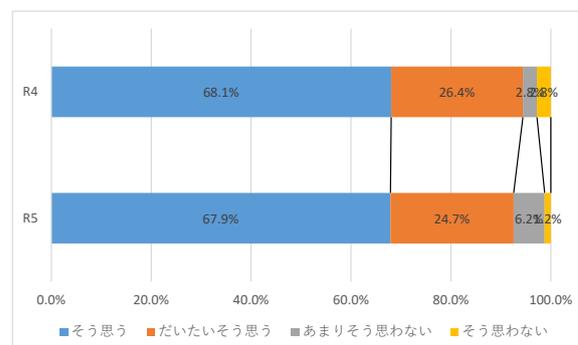
- ・ 生徒が「選ぶ」場面が様々に設定されており、主体性につながっていた
- ・ 動画でログを残すことにより、生徒が自分の成長を確認できていた
- ・ タブレット端末をそれぞれが活用する以上に、教師が個別に演示することで生徒が反応する場面があった。ねらいや効果を考えての活用が必要である
- ・ 生徒が自分で端末の活用方法を考え進めており、教師の指導は、必要なグループにサポートに入るようになっていた

- 鹿江教授から指導いただいた「順序」「課題」「方法」等を生徒が選択できる授業を、タブレット端末を活用することで展開することができた。また、生徒の変容を実感することができたことで個別最適な学びにつながる ICT 活用のイメージの共有につながった。今後、ICT を活用して生徒の学習状況を把握したり、思考を視覚化したりすることで生徒の主体性を引き出すことが、個別最適な学びの実現に必要なだと考える。

【生徒アンケート（1月）】

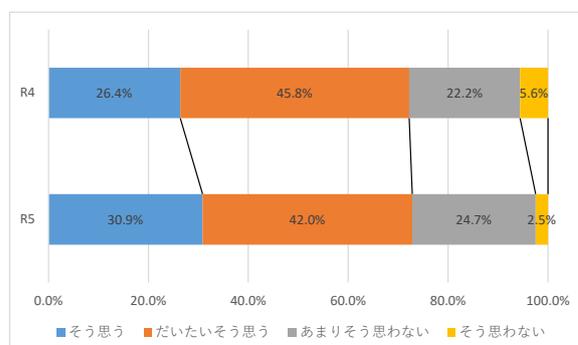
- ① ICT（タブレット・電子黒板・パソコン・教材提示装置等）を活用した授業はとてもわかりやすい。

- 昨年度に続き、本年度も生徒の自己評価における肯定的評価は 90%を超えた。一方、否定的な評価がやや増えている。教員がタブレット端末を様々に活用するようになる中で、指示や操作に戸惑う場面があることが要因として考えられる。



- ② まとめテストに向けて、粘り強く、計画的に学習に取り組んでいる。

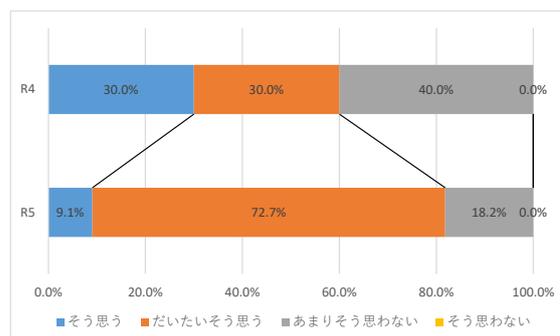
- 肯定的評価の割合は昨年度と同等であるが、「そう思う」と回答した生徒が増加した。タブレット端末に記録した前時の取組を授業導入で振り返るなどしたことで、自身の学びを整理し見通しをもてたことが要因の一つに考えられる。



【教員アンケート（1月）】

① ICT 機器等を活用し「探る」「分かる」「できる」授業づくりに積極的に取り組んでいる。

- 肯定的評価の割合は昨年度から大きく向上した。校内研修会で個別最適な学びにつながる活用方法の具体を学んだことで、活用イメージが明確になり、意図的なタブレット端末の活用が進んだことが要因として挙げられる。



5 研究成果

※成果・課題等

【成果】

- ・ 個別最適な学びの実現に向け、ICT を活用することで、生徒が自分の興味関心や課題に応じて活動や方法を選択できる場面をつくることができた。また、活用のイメージを教員全体で共有することができた。
- ・ ワークシートに考えが変化した理由を記述する欄を設け、成長や変容を実感できるようにしたり、前時に記述した振り返りを授業の導入で確認し、自分の課題を明確にして活動に取りかかったりする等、学習ログを活用する工夫が見られた。

【課題】

- ・ ICT を活用した個別最適な学びのイメージは校内で共有できたものの、実践を充実させていく必要がある。
- ・ 個別最適な学びにつながる授業を行う際には、個々の生徒がそれぞれに取り組む活動を評価することになるため、何を評価するのかを資質・能力レベルで考えるとともに、ICT を活用するなど生徒一人ひとりの学習状況を捉える方法を探ることが必要である。
- ・ 生徒一人一人が主体的に活動する時、方法、順序、手段もそれぞれだからこそ、どの場面で何を評価するのかを明確にもつ必要がある。